

選挙に行つて「アベ政治」をストップさせよう!!

林磨利子

「長良9条の会」に賛同する皆様、事務局長の林です。

今度の参議院選挙で自民党など改憲勢力は、3分の2の議席を取つて憲法改正（改悪）に突き進もうとしています。私たちにとっては、若者を始め多くの人に「選挙に行こう!」と呼びかけることで、改憲をストップさせる正念場だと思います。

今度の参院選は、下記のこと問われています。

「政治を変える選挙に行こう!」と周りに声をかけていきませんか?!



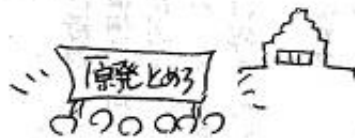
★ 9条違反の「安保関連法」をやめるのか? 続けてしまうのか?



★ 「戦争しない国」であり続けるのか? 戦争できる国にしてしまうのか?



★ 国民の声が届く政治か? 政府が勝手に決めるのか?



★ 本気で格差と貧困をなくすのか? 大企業や富裕層だけ守るのか?



★ 平和と国民の幸福を求める憲法を守るのか? 日米同盟と国家を優先する



憲法は政府が権力を勝手に使わないように国民が決めたルールだ!

憲法を変えるのか?

憲法は国民が国のために守るルールだそんなふうに変えたいな~



七月九日岐阜県空襲より七一年
各寺・教会で「平和の鐘つき」が行われます。

長良九条の会
だより
No.1
2016年6月

三十年以上アフガンの大地に用水路を拓く 「アフガンに命の水を」と語る中村哲医師

平塚澄子

メディアで紹介されることもあまりなく、知る人ぞ知る中村哲さんの活動である。名声を博すことや、お金儲けに奔走する現代人とは違う彼の地道な人柄に驚く。

この人の周りを、多くのNGOの人等が通り過ぎていった。メディアに注目されなかったり、また活動の成果が誇示できなかったりして、いつの間にか消えていったと、以前ハシヤワール会の会報で読んだ記憶がある。

けれども不思議な人とも思う。ハンセン病治療のため医師として赴(おもむ)いたアフガニスタンの地で、三十年という長い年月、井戸掘り灌漑(かんがい)活動に身を投じている。

白衣を脱いで作業服に身を包み、パワーショベルの運転台にいる古希近い人の姿を想像するのは難しい。

しかし、今世界が抱えているテロや難民問題の根っこを自分の眼で見てきた彼が、もっとも大事にしているのは「命」であり、それを支えるのは「水」だと思いついて、医療活動と共に灌漑に邁進(まいしん)しているわけも理解できる。



現地で開催した用水路の
写真を前に語る中村さん
＝各務原市の市民会館で

各務原で講演会

(5月27日 各務原市民会館にて)

最後に、日本の安倍政権は「憲法九条を変えて、武力を持って海外に出て行き、自ら敵を作り出そうとしている。安保法制が「戦争法」と言われるゆえんである。

アフガンの人々は「九条」を持つ日本に親しみを感じており、それがハシヤワール会の活動を支えてきたことを忘れてはならない。

5/20 中 9条の変更絶対反対

大島 千穂 中学生
(名古屋市中村区) 13歳

僕は、九条改憲には反対です。今の与党は「世界、そして日本の平和のために憲法を変えよう」と言っていますが、僕はそうは思えません。

なぜなら、憲法九条を変更してしまうということは、戦争をしようと言っているのと同じだと思うからです。

世界の平和のためには、多少の犠牲は仕方ないと考える人もいるかもしれませんが、しかし、犠牲になる人々を大切に思う人たちが改憲には絶対反対です。

僕も、憲法を変えて平和を勝ち取ったとしても、家族が犠牲になった人たちにとって、その平和は本当の平和と言えるのでしょうか。僕は、言えないと思います。

大切な人を失って、平和を喜ぶなんて、僕にはできません。皆さんも同じ考えではないかと思えます。いや、同じだと信じたいです。ですから最後に一言、改憲には絶対反対です。

6/7 中 「9条守れ」少年に感動

小泉 通 高校講師
(三重県松阪市) 67歳

私は、本欄のヤングのコーナーをいつも楽しみにしている。五月二十日付の名古屋の中学生の「9条の変更絶対反対」を読み、こんなに深く考えている少年もいることに感動し、心強く思った。

その中の「憲法九条を変更してしまうということ、戦争をしようと言っているのと同じ」という指摘は、まさしくその通りだ。九条が存在するが故に、他国を攻めることも、攻められることもなかった。改憲を唱える人々の最大の理由が「今の憲法は終戦

憲法が変わったらどうなるの? 「緊急事態宣言」!?

—自民党案シミュレーション— (明日の自由を守る若手弁護士の会)



時に米国によって起草されたもの」という点にあるが、九条によって平和が維持されてきたのだから、そんなことは問題でない。

またこの中学生は「大切な人を失って、平和を喜ぶなんて、僕にはできません」とも言っている。

この少年に言いたい。「君の考えは間違っていない。これからは自信を持って、周りの友達にもこのことを熱く語ってほしい。」